

正 誤 表

「コンパス生物薬剤学」(第3版第1刷)

下記の箇所にて誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

頁	行, 箇所	誤	正
2	上から6行目	動脈が	静脈が
39	上から4行目	(GFR) といい, GFRは	(GER) といい, GERは
47	図3・11 b)	メトクラミド併用	メトクロプラミド併用
53	下から2行目	$1 - F_g$	$1 - E_g$
69	図3・38 出典	587	588
77	図4・1 (2か所)	血漿非結合形分率	非結合形分率
80	表4・1 最上行	血液量	血流量
		血流量	単位重量あたりの血流量
	表4・1 組織の列	肝静脈	肝動脈
86	図4・9	<p>(下図に差し替え) (弱酸性薬物の枠内を訂正)</p> <p style="text-align: center;">図 4・9 薬物の分布容積</p>	
89	図4・15	<p>(下図に差し替え)</p> <p style="text-align: center;">図 4・15 平衡透析法および限外ろ過法によるタンパク結合実験法</p>	

頁	行, 箇所	誤	正
98	図 4・23	母体側刷子縁膜	刷子縁膜
		胎児側刷子縁膜	側底膜
109	上から 12 行目	図 5・24	図 5・25
113	上から 6 行目	図 5・34	図 5・35
138	表 5・15 CYP1A2 の 酵素誘導剤の例	ランプラゾール	ランソプラゾール
	表 5・15 CYP1A2 の 酵素誘導機構	転写促進 (AhR/Amt)	転写促進 (AhR/ARNT)
	下から 5 行目	一遺伝子多型	一塩基多型
163	上から 3 行目	図 6・6	図 6・7
191	下から 1 行目	塩基性	酸性
220	下から 2 行目	$\frac{D_{iv}}{V_d} \cdot \left(\frac{1}{1 - e^{-k_e \cdot \tau}} \right) - e^{-k_e \cdot \tau}$	$\frac{D_{iv}}{V_d} \cdot \left(\frac{1}{1 - e^{-k_e \cdot \tau}} \right) \cdot e^{-k_e \cdot \tau}$
266	左段 下から 2～1 行目	③×：pH 分配仮説に従う場合，酸性薬物では pK_a が小さいほど	③○：pH 分配仮説に従う場合，酸性薬物では pK_a が大きいほど
267	左段 下から 15 行目	㊸○	㊸×
275	右段 最下行	(以下を追加) ㊸×：シクロスポリン (ネオーラル® のみ) の記述である。	

(株)南江堂 2022.3)